

8-1 検証結果【体調不良者等専用スペース 受付】

このスペースは、新型コロナウイルス感染症の方が療養する場所ではない。また、救護所でもない。イメージは、『具合が悪いので、地元の内科の病院に通院しようかと考えている人が滞在する場所』とした。

ただし、新型コロナウイルスがまん延した状況では、感染に気付かず、無自覚のまま避難所に避難してくる可能性があるため避難所での感染症対策を検証した。

大きく3カ所での検証を実施した。

1つ目、症状などを聞き取り、避難者の滞在場所を確認する「受付」

2つ目、濃厚接触者や咳、発熱が治まり、すぐに病院へ行く必要は無いが経過観察する避難者が滞在する「経過観察室」

3つ目、咳、発熱などの症状があり、通院を希望または通院している避難者が滞在する「体調不良者専用室」

受付手順の検証

1. 設置場所

可能な限り他の避難者との動線を分けるため、出入口は、体育館とは別の玄関を使用した。

避難者が間違っ入らないよう、入口にわかりやすい表示をした。

2. スタッフの防護

少なくとも体調不良の自覚がある避難者であり、その対応には、マスク、目の防護（フェイスシールド等）、ガウン（ゴミ袋で代用）を着けた。

3. 消毒、マスクの配置

避難者がマスクを着けた状態で検温できるよう入口から受付までの動線上に消毒液とマスクを配置した。

4. 施設内の立入禁止の表示

施設内の他の場所と体調不良者等専用スペースを空間的に区別するため、避難所として使用するエリアの境界にビニールカーテンを設置した。

避難所開設時にビニールカーテンがないことも想定し、まずは長机で通路を塞いで視覚的に立ち入らないようにして、「立入禁止」の表示をした。

5. 体調不良者単独での滞在

症状を訴える人が多数滞在することから、感染リスクを下げるため、原則、単独での滞在とした。ただし、子供や高齢者など自分の身の回りのことが単独でできない場合は、最小限の保護者に限定して一緒に滞在することとし、世帯での滞在はしないものとして検証した。

6. 避難者への声掛け

風除室内に設定したため、大声にならない程度での声掛けを実施した。

「そちらで手の消毒をしてからマスクを付けて来てください」
「こちらは、体調不良の方の専用出入口となりますが、間違いないですか」
「健康セルフチェック表は、中で確認します。」
「検温するので、おでこを出してください。」

「38度ですね。」
「では、中の受付で滞在場所を案内します。」
熱がなく、自己申告の場合
「36度ですね。どのような症状がありますか」
(返答例：咳がひどい など)
「分かりました。では、中の受付で滞在場所を案内します。」

7. 受付での対応

「書類はこちらで受け取ります。」
◎チェック『健康セルフチェック表』を確認
咳発熱など症状有り → 体調不良者専用室
濃厚接触者、熱が下がったばかりなど → 経過観察室
「〇〇の症状ですね。では、専用の部屋へ案内します。」
「感染症対策のため、段ボールベッドを指定します。ベッドの向きや場所
を変えないようにお願いします。」
「他にも体調の悪い方が避難してきます。教室、トイレ、手洗いは共同と
なりますので、マスク、手洗い、2mの距離のご協力をお願いします。」
「災害対策本部を通じて保健師とも連絡が取れますので、健康面での不安
なことは、すぐにお知らせください。」

専門家の指導・課題

1. 検温スタッフの感染防止

非接触型体温計であっても、正確に測ろうとして顔を近づけると感染リスクが高くなる。
また、体温計をおでこにぶつけないよう、相手の肩を支えて測ると相手に触れてしまうため感染リスクが高くなる。
非接触型体温計で検温するスタッフの訓練が必要である。

2. 滞在場所のリスク

このスペースは、そもそも具合が悪い方や濃厚接触者が滞在する場所であり、体育館と比較して感染症のリスクは高くなるため、適切な感染症対策は欠かせない。

3. ドアと消毒薬の距離

専用スペースでは、出入口から消毒するまでの間は、ウイルスを消毒しないまま行動することから、ドアから消毒液までの距離は、可能な限り短い方が良い。
また、ドアノブは、高リスクとなるため、こまめな消毒も必要となる。

4. 玄関ドア

玄関ドアの常時開放は、強風や雨が吹き込んだり、不審者など防犯上の問題、害虫等の侵入などがあるため難しい。
また、子供が間違っ入ってこないよう漢字にはふり仮名を振ったり、外国人向けに他言語での表示も検討した方が良い。

5. ゴム手袋の注意

基本的に避難者と接する際のゴム手袋は不要（清掃やゴミ取扱時は除く）。
物の受け渡しをしたときは、毎回、手の消毒を行う。

ゴム手袋を使用するときは、避難者1人ずつ、毎回交換しなければ、スタッフのゴム手袋を介して感染が拡大する。

ゴム手袋を付けた状態でのアルコール消毒は、アルコールによる手袋の穴あきが指摘されており、ゴム手袋を脱いたら手洗いすることが求められている。

6. 個人スリッパの利用

スリッパを持参する避難を呼び掛けているが、特に専用スペースでは、裸足、靴下は感染を広げるリスクが高くなるため、必ずスリッパを履くように案内するとともに、共用で使用することを防ぐため個人のスリッパを優先した使用をお願いする。

場合によっては、使用後に廃棄できるような新聞紙スリッパも検討する。

8-2 検証状況【体調不良者等専用スペース 受付配置図】

